総合教育センターだより

街路樹

発行第　１３２　号
令和元年６月２８日（金）
いわき市総合教育センター
いわき市平字堂根町１－４
０２４６（２２）３７０５

これからの社会科の視点と実践

本年度より、小学校の学校訪問において社会科も実施されることとなりました。各学校ではABCプランをふまえ、地域の社会的事象を教材化しながら、問題解決的な学習に取り組まれていることと思います。

さて、「主体的・対話的で深い学び」をどう具現化するか、まだ戸惑いがある先生もおられるのではないでしょうか。学習指導要領を執筆された澤井陽介先生が、５月に実施した研修主任研修で、「主体的な学びでは**『問い（課題）は本当に子どもに届いているか』『問題解決は子どもが手が届きそうに感じているか』『振り返りを大切にしているか』**という点が大切になってきます。」と、ヒントとなるお話をして下さいました。

「問い」について考えてみましょう。例えば授業の導入で、土地の様子の写真資料を提示して「見つけたことを何でも書いてみましょう。」と指示をすることはありませんか。目が養われている子どもは、様々な気づきがあると思います。しかし全員ではありません。

問いを子どもたちが持つために**「〇〇はどのように広がっているのだろう」「なぜ、この場所に多いのだろう」「いつ頃（季節／時間帯）の様子だろう」** 等、気づきの視点を具体的にしていきましょう。複数の資料を提示して「変化」に気づかせることも有効です。それが「時間・空間・相互関係」等の「社会的な見方・考え方を働かせた」問いとなってきます。子どもが「なぜ？どうして？〇〇だからかな」と思うことが「問いを届ける」一つです。

子どもたちに問いを持たせたら、「予想」と「解決の見通し」を持たせましょう。子どもにとって、**手が届きそうな問題解決**に感じてくるのではないでしょうか。

※参考　「令和元年度研修主任研修資料」澤井陽介先生
（興味のある方、研修主任がお持ちです。）
「月刊社会科教育　2019年各号」（明治図書）

「理解を深めるために」

現在、教育支援室では、来年度の新入学に向けて保護者から様々な相談があり、就学相談を行っているところです。その中で、「一斉指導についていけるのか」「新しい環境で子どもがやっていけるのか」「これまでのように支援を受けたい」といった不安や願いが聞かれます。そのような不安を解消するために、**「いわきっ子入学支援シート」**での情報共有や入学支援会議などでの切れ目のない支援の必要性をひしひしと感じています。また入学前に学校を見学していただくことで、少しでも不安が取り除ければと見学を勧めておりますので、その際は、各学校での対応をどうぞよろしくお願いします。

その他、新入生を支援するプログラムとして、学級担任に対して、「子どもの理解と対応を促進するためのサポートプログラム」を提供しています。教育支援室スタッフが学校を訪問して学級活動の授業の中で**「サポートプログラム」**を実施します。体験された学校からは、「児童に教師の指示が通るようになった」「合理的配慮を提供するための15のポイントを意識するだけでも、学級全体が落ち着いた」などの感想をいただきました。最近では、現職教育の校内研修で、特別支援教育の研修を行っている学校が増えており、「配慮を必要とする子ども達を理解するための研修」についての要請を受けることも多くなりました。配慮を必要とする子ども達はもちろん、誰にとってもわかりやすくなる支援、子どものよさを大切にして、できることを伸ばす支援について一緒に考えていきたいと思います。

いわきっ子入学支援（保幼小連携）
システム運用の手引　教育支援室活用の手引　より

「小学校外国語科の実施に向けて」

小学校において、次年度から、３・４年生では外国語活動の履修時間が35時間に、５・６年生では外国語科が教科化され、70時間になります。このことにより、先生方が一人で外国語活動・外国語科の授業をする時間が確実に増えていきます。ALTとTTを行う際にも、担任がT1となり、ALTはT2としてご活用いただきたいと思います。

外国語科の目標には、「外国語によるコミュニケ―ションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して～」とあるように、外国語科の授業の中で「言語活動」の在り方がとても大切になってきます。

「言語活動」の有効な手法の一つとしてスモールトークがあります。スモールトークとは、授業の中での教師と児童、または児童同士の「やり取り」を指します。デジタル教材を活用する際にも、いきなりDVDを見せるのでは、ただの聞き取りになってしまい、子どもたちの興味・意欲を十分に掻き立てることができません。これから学ぶことのイメージをつかめるような「やり取り」を行った後にデジタル教材等を使用すると、とても効果的です。スモールトークは既習事項や表現を繰り返し活用することが基盤となります。ぜひ、授業の中にスモールトークを積極的に取り入れた授業をお願いします。

もう一つ意識していただきたいことは、「小中連携」の大切さです。ここ数年間は、小学校における外国語活動の履修時間数が異なる児童が毎年中学校へ入学します。そして今年度は教科化に向けての最後の移行期間年度となります。そのことを踏まえながら、中学校の先生方には小学校の外国語活動の授業に、小学校の先生方には中学校の英語科の授業に興味や関心を持っていただき、現在の学習状況を共有し、来年に備えていただければと思います。